



発行
天理教本愛大教会

〒453-0821
名古屋市中村区大宮町 1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部

活動目標
喜びの旬
おたすけの日々
楽しみの道

六代会長就任奉告祭

真柱様メッセージ

6月20日に執行された六代会長就任奉告祭において、真柱様からメッセージを頂戴した。当日、世話人・松村義司先生が代読されたメッセージの全文を掲載する。

日頃は、道の上にいるいと御丹精下さり、誠に御苦勞様です。

また、今日は本愛大教会六代会長就任奉告祭がつとめられ、心よりおよろこび申します。新型コロナウイルスの不安が続く中、いろいろと対策を講じて祭典をとめることになり、私も出席が叶わなくなりましたので、書面をもって本日の気持ちをお伝えしたいと思

います。

さて、私たちは、教会名称の理は末代にかけて許されたというように教えられているのであります。名称の理が末代であるならば、教会長の理もまた、末代続くと考えられるのであります。

しかし、教会長をとめるのは人間ですから、与わった寿命があることを考え、誰かに替らなければ

ならない日が来るのは、自然の流れのようなものであります。

本愛大教会は、この度、前会長の辞任によって、六代目の会長が就任しましたが、それはつとめる人が替わったのであって、教会長の理が変わったわけではないのであります。

名称の理を末代にわたってお許し頂いたということは、その名称がいつまでも続くところに、親神様の思召があるということだと思っております。そしてそこから考えを進めますと、教会というものは、ただ形だけが続いておればよいというのではなく、どれだけ時が経ち、会長や教会に関わる人の顔ぶれが替わって

いつても、つとめる人たちの心は、最初教会設立を願った人の心と変わってしまつてはならないということではないかと思うのであります。

ところで、新しい教会長が就任したということは、教会の道すがらの上で一つの節目を迎えたと言えます。

ご承知のように、教祖はひながたの道を歩まれながら、どんな困難が起こっても「ふしから芽が出る」と仰せられて、人々を励まされ、成人へと導かれました。そのことから、私たちは何かふしと思うことに出合つた時、そこから自然に新しい芽が出て、物事が良い方向へ進んでいくという、明るい意味に受け取つていくところがあると思えます。しかし、実際はふしから折れてしまふ、挫けてしまふことも多いのであります。つまり、伸びるのもふしからならば、折れるのも

8月のこよみ

入社祭

1日 午前10時

よふき会例会

2日 午前10時

月次祭

13日 午前10時

青年会例会

13日 午前10時

布教実修所

14日 午前10時

女子青年例会

15日 午前9時50分

むつみ会例会

16日 午前10時

こども食堂MOGU

17日 午後5時

こはる会例会

19日 午前10時

婦人会例会

20日 午前10時

本部月次祭

26日 午前9時

ふしからであります。折れるのと伸びると、どちらを望むかとなると、誰でも伸びる方、新しく芽が出る方を望むと思うのでありますが、そうなるかならないかは、ふしに行き当った時、それに関わる人たちの心次第だと思うのであります。

そこで、今日は、新しい会長さんに望みたいことは、まず自ら求めて成人の道を歩んでもらいたいということとであります。教会の芯としての自覚を持って日々勤めを果たし、率先して道を歩むその姿が、自然のうちに教会の人たちからも信頼を得て、ひいては人々を導き育てることもなるといふことを考えて頂きたいと思えます。そして、みんなから一層信頼され、慕われる教会長になるように研鑽^{けんさん}を積んでもらいたいと思います。

また、御参拝の皆様方にお願いしたいことは、教会

長が替わっても、理は変わらないのであります。これからも、新しい教会長を先頭に立てて、教会の活動が活発に繰り広げられるように、お勤め頂きたいと思えます。

教会の活動は親神様の思召を弘めることにあります。教祖は寄り来る人々に講を結ぶことを促されました。そうして出来た数々の講が元になって、その後、教会が次々と生まれたのであります。そして、どの教会も初代の人が教祖の教えに成程と得心し、教えを弘めることを心に定め、親神様に願い出たところに、末代続く理として教会名称の理が許されたのであります。それから代が重なって、今日があります。

教会の歴史には、いろいろな時代があったでしょう。先人たちが遺した足跡の中、見習うべきことは見習い、反省すべき点は戒め

とし、現れてくる姿の中に親神様の思召を探りながら、教会関係者一つになって、成人の道を歩み続けることが、教会の治め向きの上に、よい芽が出る御守護を頂くことになると思えます。

六代会長就任奉告祭

大教会会長あいさつ

ただいま、六代会長就任奉告祭をつとめさせていただき、誠にありがとうございます。

子供の頃からの夢が教会長になることでした。本愛につながるたくさんの方々から大切にお育ていただき、親々のおかげでここまで成長することができました。

会長としてこれから本愛につながる皆様方に少しでもご恩返しさせていただける、そんな心でこれから勤めさせていきたいと思います。

どうか、新しい会長と共に、親神様、教祖にお応え出来るような教会の姿にますます御守護頂けるように、心を合わせてお勤め下さいますようお願いし、メッセージといたします。

もう一つの夢は、世界を変えることでありませぬ。笑われるかもしれませんが、世界をより良い方向へ変えていきたいと思えます。

これからの本愛の活動は、本当にその活動が、また一人ひとりの行動が世界を変えるきっかけになっているのだろうか、さらに言えば私自身が日々の通り方、生き方、言動、行動一つひとつが教祖の思いに合っているだろうか。その事をしつ

かりと心に留めて毎日通らせていただきたいと思っております。

まずは自分自身の世界を変える。そして世の中で悩み苦しむ人の世界を変えていく。一人ひとりが変われば、世の中全体が変わると私は信じております。

そのような信仰生活を送れるように、本日お集まりいただいた皆様と共に教祖にお誓い申し、今後の励みと致したいと思えます。

最後になりますが、この奉告祭にあたって、準備ひのきしん、また、皆様からのお心寄せを賜り、重ねて御礼申し上げます。

おかげさまで普請も無事に終えることができました。高いところからではございますが、一言お礼を申し上げます、本日の挨拶と代えさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

(文責・編集部)

教理随想

言わん言えんの理を探る



今年も子どもおちばがえりが中止になりました。たいへん残念ですが、コロナ禍の現状を考えれば致し方ないことでしょう。しかし行事が中止になったからといって、縦の伝道まで中止してはなりません。家庭で、また地域で、信仰の喜びを子供たちに伝え続けていきたいと思えます。

ところで子どもおちばがえりには毎年、「生きるよろこびを味わいます・ものを大切にします・仲良くなすけあいます」という「三つの約束」が提示されます。

これは、おちばの行事や詰所での生活を通して子供たちと三つの約束を交わすことで、教えの一端を伝えようとする取り組みで、伝えようという気持ちさえあれば、家庭でも十分に実行できるものです。しかし子供に伝えるには、まずようぼくである私たちが、その意味するところを理解し実践できていなければいけません。そこで「三つの約束」の意味を改めて考えてみたいと思えます。

①生きるよろこびを味わいます

私たちの体が親神様からの借り物であることはお互いに十分承知しています。しかし人間は体だけでは生きていくことはできません。

太陽の光と熱、水、大気という自然の恵みがあればこそ健康に生きられるのです。教祖はこの自然の恵みを「火水風」という言葉で教えてくださいました。この恵みに対して、私たちはどこまで喜びと感謝の心を持つているでしょうか。

テレビや新聞では、雨が降れば豪雨や土砂災害の警戒を呼びかけ、晴れば今度は熱中症への警戒を呼びかけます。たしかにそれらも大切な情報ですが、どうも警戒ばかりが目立って、自然に対する感謝やご恩に感じる精神が薄れ、バランスの悪い風潮の世の中になつている気がしてなりません。そこで私たち信仰者は常日頃から自然の恵みに対する

感謝と報恩の心を養い、親神様のご守護によって生かされていることを喜び、それを言葉に表して日々を送る。この生き方が大切ではないでしょうか。

②ものを大切にします

これは単に質素儉約を訴えるものではありません。「もの」とは、衣食住に関する全ての物という意味に加えて、物を作った人の心と、さらに元の原材料をお創りくださった親神様の思いを大事にしようという意味です。したがって自分の体を

含めた全ての物質と、そこに込められた創り主の思いを深く悟り、物を目的通りに正しく使つて、子供たちにも正しい使い方を示す姿勢が大切であります。

③仲良くたすけあいます

自分の家族や周囲の仲間と仲良くし、たすけあうことは言うまでもありませんが、教祖は「れつ兄弟」と教えてくだされているので

すから、まず一番身近な家族が思いやりの心を深め合い、それを周囲へ広めながら、世界中の人々が幸せになるようにとの願いをこめておつとめをつとめる。これを日頃から実践したいものです。

このように見ていくと「三つの約束」は、親神様のご守護や人間の心という目には見えない世界に心の焦点を合わせる努力が必要であることが分かります。つまり夏の日差しや雨の恵み、それに食料や住居などに感謝する心からさらに一歩踏み込んで、天のご恩に報いる心を家族で育て合うことが「三つの約束」の本当の意味なのです。

ようぼくは日頃からこの約束を忘れず、あらゆる機会を通じて子供たちに伝える努力を続けていきたいと思います。それが報恩の生き方で、家族団らんの姿につながる道であります。

【第 80 回】
**神の守護に焦点を合わせ
 親子で歩もう報恩の道**

女子青年

6月20日、女子青年の委員長、副委員長並びに委員が新たに任命され、安藤くみ子支部長より辞令が交付された。現在の委員は次の通り。

委員長

門田二三美 (本理愛)

副委員長

大倉由里奈 (本一心)

種田ゆかり (本煥)

石井 亜実 (本耀)

村松 文佳 (本心)

委員

中村 加奈 (本心)

石井 果 (本耀)

中島 里香 (本清明)

樋口 七海 (本知)

水野ひなよ (〃)

種田 美里 (本煥)

板山眞依子 (本濱松)

水野たまえ (本知)

村松 未幸 (本心)

加藤 希実 (本高見)

門田 愛美 (本理愛)

吉田 莉菜 (本鈴鹿)

北川 誠美 (本滋賀)
古市 理彩 (〃)
小川 愛良 (〃)

栗原 菜摘 (直轄)
村上 結香 (本心)

村松 萌 (〃)

上野 恵 (本孝徳)

門田 育美 (本理愛)

久保奈々子 (本信義)

大池 萌香 (本尾愛)

以上27名

修養科生教養掛

第958期

4月 久保 眞樹 (本信義)

5月 瀧 弘行 (本孝心)

6月 種田 孝男 (本煥)

右の各氏が教養掛を務めた。

教人登録者

(令和3年6月16日付)

本 築 (本築港) 山下 秀伸

以上1名

第113回教人資格講習会

修了者

(令和3年7月11日付)

本 知 (本正徳) 水野 理歩

本 耕 (本耕愛) 澁谷 昌美

本 耀 石井 雅
本理愛 門田 讓
以上4名

修養科第958期修了者

本理愛 門田 讓
以上1名

6月の初席者

本 晃 (本鯨城) 田中 和子
以上1名

お出直し

深川たま氏 (本晃部属・本晃道分教会二代会長)
7月1日に出直された。

享年104歳。告別式は7月4日午前11時より、野田正道・本晃分教会前会長を齋主として執り行われた。

松浦誠子氏 (大教会婦人・本喜愛分教会二代会長夫人)
7月12日に出直された。

享年88歳。告別式は7月15日午前10時より、世話人・安藤正二郎役員を齋主として執り行われた。

大教会日誌

令和3年6月25日～令和3年7月24日

6月

25日 修養科志願者面接 (於・本愛詰所)

26日 本部月次祭

30日 常任役員会議◇役員会議

7月

1日 入社祭

祭 主・大教会長 扨者・田中新一、吉田克義
指図方・板山公司 賛者・佐藤幸一郎、中島裕信

2日 よぶき会例会

おつとめ・十二下りてをどり

12日 常任役員会議

13日 月次祭

祭 主・大教会長 扨者・筑紫英一、杉村善男
指図方・板山公司 賛者・野田正樹、山本治行
◇祭典講話—杉村善男
◇大教会長挨拶

青年会例会

14日 布教実修所

16日 むつみ会例会

17日 女子青年例会

こども食堂MOGU (参加者45名)

20日 婦人会例会